

## VI 附属図書館

### 1. 設置目的・理念

附属図書館は、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他、本学における研究・教育に必要な資料を効率的に収集・管理し、情報提供のシステムを整理するとともに、他大学との連携・協力のもとに、本学教官及び学生、または地域への学術情報の提供に関する便宜を図ることを目的としている。

最新の技術を効果的に取り入れて、最新情報を迅速に提供できるよう調査・研究を行い、より高度なサービスの提供に向けて努力している。



### 2. 現 状

#### 1) 組 織

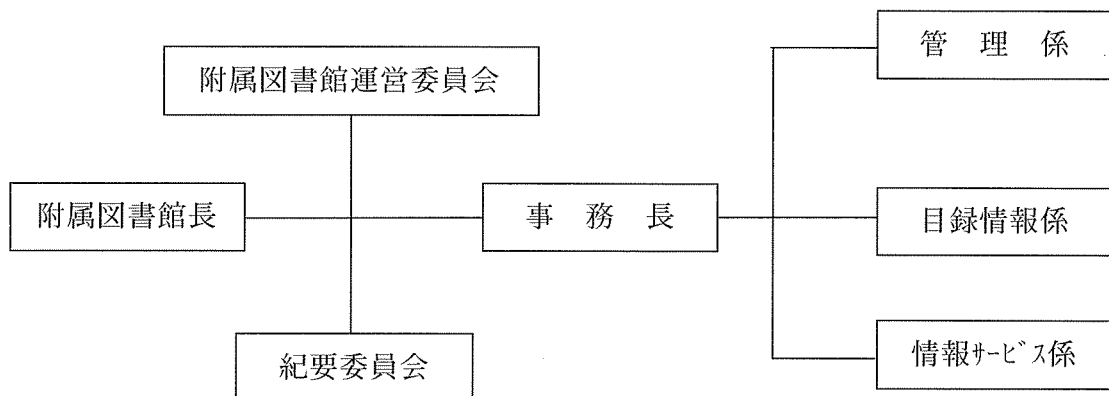
附属図書館長（併任）

事 務 長 1名

管 理 係 定員2名 事務補佐員1名 用務員1名

目 録 情 報 係 定員2名

情報サービス係 定員2名 事務補佐員1名



#### 2) 施設・設備

##### (1) 施 設

鉄筋コンクリート造3階建〔昭和41年度新築（1,047㎡）、昭和52年度増築（1,348㎡）〕総延床面積は2,395㎡で、その内訳はサービス・スペース657㎡、収納スペース1,042㎡、事務スペース等696㎡となっている。構造は鉄筋コンクリート3階建であり、次のようになっている。

地階（129㎡）は開架書庫。1階（1,805㎡）は閲覧室、カウンター、参考図書コーナ

一、雑誌コーナー、大型本コーナー、文庫本室、AVコーナー、自習室、パソコン室と開架書庫、閉架書庫、資料室と事務室、複写室等がある。

2階（262㎡）には、特別閲覧室と閉架書庫と館長室がある。3階（199㎡）には、閉架書庫がある。

## （2）設 備

### ①入退館管理システム

正面玄関に、入退館管理システムを設置し、入館者のチェック、退館時の図書不正持ち出しをチェックしている。

### ②情報検索用機器

図書館システム検索専用端末（OPAC）4台、インターネット接続パソコン22台、ネットワーク型CD-ROM検索用端末3台、スタンドアローン型CD-ROM検索用端末1台が設置されている。

### ③視聴覚設備

1階のAVコーナーには視聴覚機器としてブースが7台設置されており、CD、LD、DVD、VTR等のソフトが利用できる。また、放送大学の受信設備を設置し、放送大学の講座を視聴することができる。その他マイクロリーダープリンター1台がある。

### ④CD-ROMサーバシステム

学内LANを利用したCD-ROMデータベースを学内に提供している。検索端末は図書館内に3台設置しているが、各研究室及び学内にあるパーソナルコンピュータで、学内LANに接続されている端末であれば機種を問わず、検索が可能である。

## 3）教育研究及びそれに関連する諸活動

### （1）開館時間

夜間大学院の開校に伴って平成11年度より、授業期間中の土曜日の開館時間がこれまでの午前9時から午後12時30分までであったのを、午前10時から午後5時までで延長し、図書館利用の機会を拡張するよう便宜を図った。過去5年間の年間開館日数及び土曜開館時間数の推移は下記のとおりである。

年 度	H7	H8	H9	H10	H11
年間開館日数	235	240	239	246	251
土曜開館時間数	109	102	120	109	217

### （2）ガイダンス

平成11年度より、新生を対象とした図書館ガイダンスを実施しており、館内ツアーを始めとして、基本的な図書館の利用の仕方、資料の調査・検索方法、資料・文献の入手方法、種々の利用手続きの仕方等を行っている。

また、館内のパーソナルコンピュータを使用して、基本設定から本学の蔵書検索、国

立情報学研究所のデータ検索等の実習を行っている。

平成12年度には、図書館ガイダンスを授業の一環として基礎ゼミナールにおいてコース毎に実施した。これにより、新入生全員に図書館の利用方法の周知及び、情報を活用させることが可能となった。

### (3) 蔵書の充実

教育・研究に必要な図書資料を充実すべく、教官、学生、各講座から推薦図書を募集して蔵書の充実を図っている。また、CD-ROM、ビデオ、DVD等の視聴覚メディアの充実にも力を入れている。

近年では、オンラインジャーナル、ネットワーク対応型のCD-ROM等が普及してきており、ネットワークを介して提供できる学術文献情報を充実すべく検討中である。

平成12年度には、学部の各コースからの購入希望図書の推薦を募り、各コースにおける必要図書資料の充実を図った。また、学生指導費から図書を購入していただくなど、教官との協力により図書の充実には努力している。

### (4) 利用者サービス

#### ①他大学図書館の直接利用

本学の教官及び学生が、他の国立大学図書館、大学共同利用機関及び公私立大学図書館等を利用する場合は、附属図書館が発行する「閲覧許可願」を持参することにより、相手館の閲覧規程の範囲内におけるサービスを受けることができる。但し、奈良県図書館協会大学・専門図書館部会に加盟している機関については、本学の身分証若しくは学生証を提示するだけで相手館の利用規程の範囲内において利用サービスを受けることができる。

#### ②文献複写

国立情報学研究所のネットワークを介したILL (Inter Library Loan) システムを利用して、ILLに参加している全国の大学図書館、各研究機関等で所蔵する図書・雑誌等の文献を入手することができる。

#### ③現物貸借

文献複写と同様に、ILLシステムを利用して、ILLに参加している全国の大学図書館・研究機関等で所蔵する図書を借用することができる。

#### ④公共図書館との協力連携

大学改革に基づく開かれた大学を目指して、本学図書館では公共図書館に対しても文献複写や現物貸借等の相互利用を積極的に行っている。

### (5) 図書館の電算化

#### ①図書館システム

平成元年2月1日より図書館システムを導入し、図書館の電子化を開始して以来、平成12年2月1日で3回目の機器更新を行った。平成7年度の機器更新では、それまでのオフィスコンピュータからUNIXシステムに切り替えた。学内LANが整備されたのを機に附属図書館のホームページを立ち上げ、WWWによる蔵書検索を実現したことにより、学外からの蔵書検索が可能となった。

また、平成11年度の機器更新では、館内の蔵書検索専用端末にWWW版の蔵書検索を採用し、操作方法の違いによる利用者の混乱を解消した。

#### 機器構成

データベースサーバ	(Sun Ultra 10 Workstation System)	1台
WWWサーバ	(Sun Ultra 10 Workstation System)	1台
業務用端末	(HP Vectra Vei8)	7台
蔵書検索専用端末	(HP Vectra Vei8)	4台
図書自動貸出用端末	(HP Vectra Vei8)	1台
ネットワークプリンタ	(Canon LBP-880)	3台

#### ②CD-ROMサーバシステム

平成8年度にCD-ROMサーバを導入し、学内LANを利用したCD-ROMデータベースを学内に提供している。検索端末は図書館内に3台設置しているが、各研究室及び学内にあるパーソナルコンピュータで、学内LANに接続されている端末であれば機種を問わず検索が可能である。

ネットワーク対応のCD-ROMとして、雑誌記事索引カレント版を提供している。スタンドアロンタイプでは、CD-HIASK (朝日新聞記事データベース)'90-'94、理科年表等を提供している。

#### (6) 遡及入力

本学が所蔵する全蔵書冊数のうち、約60%はデータベース化されており、蔵書検索も図書館まで足を運ばなくても検索が可能となっている。しかし、残り40%が未入力の状態であり、その中には利用価値のある図書もあるため、随時、遡及入力を行っている。

#### (7) 画像データベース

本学が所蔵する貴重図書資料を画像データベース化し、インターネットを通じて公開することによって、国内外の研究者に貴重な文献資料情報を提供している。

また、貴重資料を画像データベース化することによって、貴重な資料を痛めることなく、多くの研究者や一般市民に情報の提供を行っており、現在「奈良絵本」、「幕末明治の浮世絵」の画像データベースを公開中である。

平成12年度における画像データベース化の予定としては「東大寺執金剛神縁起」、「奈良晒関係文書」、「興福寺南院文書」等を予定している。

#### 4) 地域社会への寄与

##### (1) 地域への図書館開放

平成11年度に「附属図書館規程」の抜本的改正と「附属図書館利用規則」の改正を行った。その中で特筆すべきことは、学外者への利用範囲の拡大である。本学の卒業生、県内教育関係機関の教職員、近隣の一般市民研究者に対して、図書館で所蔵する指定図書、教科書、指導書、雑誌、紀要を除く一般図書について、貸出冊数5冊、貸出期間14日の館外貸出が認め

られた。

下記に最近3ヶ年の本学図書館における学外利用者数を示す。

#### 学外利用者数

	他大学の 学 生	他大学の 研 究 者	大学以外 の研究 者	そ の 他 (一般市民等)	計
平成9年度	120人	8人	4人	77人	209人
平成10年度	129人	8人	4人	254人	395人
平成11年度	143人	11人	33人	409人	596人

#### (2) 附属図書館開放講座

大学開放の一環として大学の知的財産を広く地域に公開するため、平成12年1月より附属図書館が主催する「附属図書館開放講座」を開催している。開放講座終了後には附属図書館の見学を行い、一般市民への利用を促進している。

開放講座実施一覧は下記のとおりである。

第1回 平成12年 1月29日(土) 午後2時～4時開催

講師 赤井達郎氏

演題 奈良町人が集めた浮世絵

第2回 平成12年 5月27日(土) 午後2時～4時開催

講師 木村博一氏

演題 奈良は古都か

第3回 平成12年 7月15日(土) 午後2時～4時開催

講師 真鍋昌弘氏

演題 十七・八は候か

第4回 平成12年 9月30日(土) 午後2時～4時開催

講師 鳥居春己氏

演題 奈良公園の鹿・今は

第5回 平成12年11月11日(土) 午後2時～4時開催

講師 森下郁子氏

演題 共生の自然学

第6回 平成13年 1月27日(土) 午後2時～4時開催

講師 松村竹子氏

演題 光と色の不思議な世界

### 3. 点検・評価と改善の方策

#### 1) 施設

図書館の建物は昭和41年度に新築、昭和52年度に増築されて現在に至っている。従って新築部分は特に老朽化が著しく、冷暖房の完備がなされていない部分がある。特に、この部分に和装本、その他の貴重図書が多数保管されており、劣化が危惧されている。

また、書庫スペースの収容能力が90%強に達しており、資料管理及び資料閲覧の上でもかなりの不便を感じている。

現在の建物は緑に恵まれており、閲覧室での勉強には視覚的にも環境が良く、全体的にフラットな構造は図書館利用の便もあるため、この環境を維持しつつ増築を計画する必要がある。

図書館の増改築については概算要求中であり、インターネット等を利用した情報伝達システムの発展、及び電子図書館的機能の充実を踏まえた増改築計画を検討する必要がある。増築の内容には貴重図書を安全に保管できる書庫、インターネットを活用した授業を展開できるメディアルーム、グループセミナー室等の現在の図書館には無い設備を要求している。また、改築内容には全館冷暖房完備を中心として、多目的ホールの設置を計画しており、附属図書館開放講座、大学公開講座・講演会等に幅広く活用できるスペースを計画している。

なお、増改築予算が配分されるまでの期間、図書館スペースの有効利用と図書資料の所蔵状況の見直しを検討する必要がある。早急の課題としては、一般開放を推進しつつある図書館として、車椅子による入館を容易とする玄関設備の改善を行う必要がある。

附属図書館は正面玄関から閲覧室までがフラットな構造であるため、車椅子でも容易に利用が可能である。しかし、重量のある前後開閉式の扉であるため、車椅子による入館が介助者無しでは困難である。また、正面玄関に入退館システムを設置した際に、内扉を撤去したため、風除室が無い状態であり、玄関ロビー周辺の居住環境が著しく悪化している。また、館内には身障者に対する対策がほとんど成されておらず、増改築計画と併せて検討する必要がある。

#### 2) 設備

視聴覚機器及びCD-ROMサーバを含めて、情報検索、視聴覚関連機器等のハード面に関して、所有数は少ないが、種類のにはある程度充実している。しかし、CD-ROMデータベース及びAV資料等のソフト面における所蔵数に見劣りが感じられる。

また、視聴覚関連機器はコーナー設置しており、密閉空間に設置されていないため、ヘッドフォンの使用を余儀なくされている。さらに視聴覚機器数が少ないため利用者を制限する場合がある。

#### 3) 教育研究及びそれに関連する諸活動

##### (1) 開館時間

今後の計画として図書館の利用状況、利用者の意見等を十分に調査を行い、平日開館時間の延長及び休日開館の実施を計画している。その際、開館時間延長に伴う人件費等、経費の確保が必要である。

##### (2) 蔵書の充実

本学では「研究・教育及び学習上、必要な資料を収集するとともに、学術書、教養書

等の基本資料の選択に配慮し、教員養成大学図書館として体系的で均衡のとれた蔵書構成を図る」(「奈良教育大学附属図書館図書館資料収集方針」1987年)の主旨に従い、蔵書の充実に努めてきた。蔵書の構成としては、教員養成大学という特色上、文科系、理科系、芸術・体育系という広範な分野の蔵書構成を確立している。しかし、図書館資料費等の面から、基本図書を充実させるにも厳しい状態であり、タイムリーな新刊図書を揃えるには非常に困難な状況ではあるが、すでに実施している教官推薦・学生推薦による図書購入を効果的に推進し、利用者の需要を的確に反映していきたい。

### (3) 利用者サービス

図書館の増改築については概算要求中であり、インターネット等を利用した情報伝達システムの発展、及び電子図書館的機能の充実を踏まえた増改築計画を再検討する必要がある。増築の内容には貴重図書を安全に保管できる書庫、インターネットを活用した授業を展開できるメディアルーム、グループセミナー室等の現在の図書館には無い設備を要求している。改築内容には全館冷暖房完備を中心として、AVホールの設置を計画しており、公開講座、講演会等に幅広く活用できるスペースを計画している。

館内には身障者に対する対策がほとんど成されておらず、一般開放を推進しつつある図書館として、車椅子による入館を容易とする玄関設備の改善を行う必要がある。

入退館システムの統計データから図書館利用者を分析し、利用者のニーズに即した図書館サービスを展開していく必要がある。そのためにも利用統計のデータのみならず、利用者の生の声を取り入れて行く方法として、学生座談会の定期的開催を計画すると共に、授業の一環としての図書館利用を推進する必要がある。

開館時間についても、平日夜間開館時間の延長を早期に実現し、日曜開館を積極的に検討する。そのための経費、環境整備等の問題点を解決しなければならない。

### (4) 図書館の電算化

学内において外部データベースの有効性はあまり認識されておらず、必要要求の声も聞こえてこない。しかし、CD-ROMサーバの導入、情報提供開始後は利用希望の声が高まり、研究室からのアクセスも増えつつある。現在扱っていない一般企業が提供する情報検索サービスも、導入すれば利用される可能性も大いに考えられるので、導入に向けて調査・検討をする必要がある。

情報検索サービス及びデータベースソフトの選択、維持費の確保や使用料の支払方法等が今後の検討課題ではあるが、早期に導入したい。

学術情報は、従来の印刷物の形態から、オンラインジャーナルのような電子化されたメディアとしてインターネット上に公開されつつある。本学の図書館システムも、このような動向に対応すべく、電子化資料の作成・公開を目指すと共に、電子化されたメディアを導入することによって、大学から地域に至るまでの情報発信基地として発展すべく努力している。

### (5) 遡及入力

現在、定員2名で随時遡及入力を行っているが、通常業務との並行作業であるため、作業終了の目途が立っていない。本学が所蔵する資料情報を公開し、研究者への情報提

供に資するため、アルバイトの雇用などにより遡及入力を集中的に行う必要がある。そのための予算確保が早急の課題である。

#### 4) 地域社会への寄与

公共図書館との連携において文献複写や現物貸借等の相互利用を推進すべく、奈良県図書館協会・大学・専門図書館部会と、同公共図書館部会との間で、相互利用規約を作成中である。これにより、公共図書館を通じてより多くの一般市民が大学図書館を利用できるよう、便宜を図ることを目的としている。

また、大学開放の一環として開催している「附属図書館開放講座」を、企画広報室との連携により早期に計画し、地域のニーズにあった開放講座を開催するよう努める。

